

議事要旨	
平成 27 年度 第 1 回移動性向上プロジェクト委員会	
開催日時：平成 27 年 10 月 28 日 10:30～12:00	
開催場所：千葉県庁 議会棟 1 階 第 1・2 会議室	
委員会出席	千葉工業大学工学部 教授 千葉県警察本部 交通部交通総務課 係長 千葉県警察本部 交通部交通規制課 課長補佐 一般社団法人 千葉県商工会議所連合会 事務局長 一般社団法人 千葉県トラック協会 常務理事 一般社団法人 千葉県バス協会 専務理事 株式会社千葉日報社 広告局長 兼 TV・FM 室長 公益社団法人 千葉県観光物産協会 専務理事 東日本高速道路株式会社 千葉管理事務所 所長 東日本高速道路株式会社 市原管理事務所 所長 東日本高速道路株式会社 千葉工事事務所 所長 千葉市建設局道路部 部長 千葉市消防局警防部 部長 千葉県県土整備部道路整備課 課長 千葉県県土整備部道路計画課 課長 国土交通省 関東運輸局 千葉運輸支局 主席運輸企画専門官（運輸監査担当） 国土交通省 関東地方整備局 首都国道事務所計画課長 国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所 所長
	赤羽 弘和 石川 直幸（代理出席） 高津 功（代理出席） 梶村 一郎（欠席） 高安 茂 花崎 幸一 松本 祥彦 飯田 重行 中村 大祐 齊郷 範明 春山 和彦 槌谷 和己 安藤 勝 根本 嘉生 神作 秀雄 尾崎 行雄（代理出席） 川路 隆之（代理出席） 松浦 利之
事務局	■移動性向上プロジェクト委員会資料（資料 1） 1. 前回委員会での主な指摘事項とその対応 これまでの経緯（資料 1 の P1～P6）、前回委員会での主な指摘事項とその対応（資料 1 の P7）について説明を行った。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 渋滞を区間として捉え、先頭交差点について考えるべき。新しい指標では交差点単独になってしまうため、区間に留意した指標も考慮すべきである。 ● 意見を踏まえて選定指標について留意したい。 ● 道路構造と信号を組み合わせた対策については、今後も注力してほしい。
事務局 委員長	
事務局	2. 渋滞対策の進捗確認 今回委員会の審議内容（資料 1 の P8）、渋滞対策の進捗状況（資料 1 の P9～P12）、最新の交通状況による分析（資料 1 の P13）について説明を行った。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● ETC2.0 データを用いることで、渋滞の先頭やどこまで渋滞が達したかを分析することが可能であり、活用してほしい。 ● 現在、分析方法を検討している段階であるが、意見を踏まえ反映したい。 ● 利用経路を誘導することで渋滞が解消するので、分析を期待したい。
事務局 委員長	
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後は ETC2.0 を利用して分析するのか。 ● まだ ETC2.0 の普及台数も少ないので、民間プローブデータと併用しながら分

委員	析を行う予定である。平日休日や時間帯でも分析する。
委員長	● ETC2.0 を活用し、イベントでの渋滞予測や経路の分散を図ることが有効と考える。
事務局	● これまではデータを集めるために予算がかかったが、現在は日々データが蓄積されている。過去のデータを参考に予測することも可能である。
委員	3. 渋滞対策箇所の効果確認
事務局	渋滞対策箇所の効果確認（資料1のP14～P18）について説明を行った。
委員	● 経田交差点、中環状での渋滞状況はどう変わったのか。
事務局	● 経田交差点については、圏央道の開通効果により3つの渋滞指標すべてをクリアしたので見直しする判断を行った。中環状では渋滞指標は減少したものの、現地でも依然渋滞が残っているため、継続モニタリングとしたい。
事務局	4. 対策検討の進め方について
委員	対策検討の進め方について（資料1のP19～P27）について説明を行った。
事務局	● 長期計画の目標年度はあるのか。
委員	● 構想段階なので、今ははっきり示せない。実現性などの検証や効果検討を行いながら、その時期になったら提示したい。
委員	● 穴川周辺では警察も信号対策を行っているが、依然として渋滞が残っている。
委員	● 蘇我地区での渋滞対策をお願いしたい。穴川もまだ現在渋滞しているので、協力しながら対策を立てていきたい。
事務局	5. 移動性阻害箇所について
委員	移動性阻害箇所について（資料1のP28～P31）について説明を行った。
委員長	● 木更津地区では、特に早朝において大型車が上り勾配の国道を避け、平坦であるが幅員の狭い県道を利用し速度が下がる状況である。
委員	● 木更津地区の観光渋滞を考慮するのであれば、休日のデータでの検証も行う必要があると考える。あわせてアクアラインの渋滞対策も考慮すべき。
委員長	● 観光地からの帰宅交通集中を避けるため、駐車場料金割引クーポンや駐車場での渋滞や所要時間の表示サービスも行い、帰宅時間帯をずらしてもらう事例もある。
委員	● 蓄積している交通データから、渋滞予測ができるようになると望ましい。
委員長	

以上